

損保ジャパン・TCW・MBSオープン

Aコース (為替ヘッジあり)

Bコース (為替ヘッジなし)

〈愛称〉 こむぎ畑

最終期 (償還日 2017年11月2日)

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

	Aコース(為替ヘッジあり)、Bコース(為替ヘッジなし)	
商品分類	追加型投信/海外/債券	
信託期間	1998年10月30日から2017年11月2日まで(当初、無期限)	
運用方針	<p>①高格付の米国ドル建て住宅ローン債権担保証券(モーゲージ証券、MBS)を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的成長を目指して積極的な運用を行います。MBSは、主として住宅ローンを担保に発行された証券です。</p> <p>②実質的な投資対象証券は、米国政府または米国政府系機関保証のもの、またはAA格相当以上の長期格付が付与されている民間発行のものに限ります。また、ポートフォリオの平均格付は高位に維持することを目指し、信用リスクの低減に努めます。</p> <p>③マザーファンドの米国ドルベースの運用は、ブルームバーグ・パークレイズ米国MBSインデックスを上回る収益率の獲得およびリスクの分散を図ることを目指します。なおマザーファンドの米国ドル建てMBS運用にかかる権限を、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANYに委託します。</p> <p>④「為替ヘッジあり」コースと「為替ヘッジなし」コースがあります。</p>	
主要投資対象	損保ジャパン・TCW・MBSオープンAコース(為替ヘッジあり)	損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド受益証券
	損保ジャパン・TCW・MBSオープンBコース(為替ヘッジなし)	
	損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド	米国ドル建てのMBS
主な組入制限	損保ジャパン・TCW・MBSオープンAコース(為替ヘッジあり)	MBSの投資において、パススルー証券の元本と金利部分を分離して発行されたPO(Principal Only)およびIO(Interest Only)の実質投資割合は、取得時において各々純資産総額の5%以内とします。
	損保ジャパン・TCW・MBSオープンBコース(為替ヘッジなし)	CMOの一種で、クーポンが一定の条件式に従って指標となる市場金利等の動きとは逆の方向に変動するインバース・フローターの実質投資割合は、取得時において純資産総額の15%以内とします。外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
	損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド	
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収入と売買益(評価損益を含みます。)等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は委託会社が基準額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は分配を行わないことがあります。</p>	

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「損保ジャパン・TCW・MBSオープン(Aコース・Bコース)」は、信託約款の規定に基づき、2017年11月2日をもちまして繰上償還いたしました。ここに謹んで設定以来の運用状況と償還の内容をご報告申し上げます。今後とも当社商品につき引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル



<http://www.sjnk-am.co.jp/>

お問い合わせ先



クライアントサービス第二部 0120-69-5432

(受付時間 営業日の午前9時~午後5時)

A コース (為替ヘッジあり)
■ 最近10期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			債 券 組 入 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 分 配 込 金	期 騰 落 中 率		
	円	円	%	%	百万円
67期 (2015年8月10日)	10,377	25	△0.3	93.1	283
68期 (2015年11月9日)	10,317	25	△0.3	91.8	282
69期 (2016年2月8日)	10,391	25	1.0	95.1	270
70期 (2016年5月9日)	10,362	25	△0.0	92.0	269
71期 (2016年8月8日)	10,353	20	0.1	95.3	238
72期 (2016年11月8日)	10,293	20	△0.4	95.8	130
73期 (2017年2月8日)	10,058	20	△2.1	92.8	127
74期 (2017年5月8日)	10,027	20	△0.1	95.6	126
75期 (2017年8月8日)	10,208	20	2.0	96.4	103
(償 還 日) 2017年11月2日	(償還価額) 10,146.65		△0.6	—	68

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万円当たり(以下同じ)。

(注3) 債券組入比率は、マザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注4) 当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載していません。

■ 最終期の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		債 券 組 入 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	
		円	%	%
最終期	(期 首) 2017年8月8日	10,208	—	96.4
	8月末	10,220	0.1	95.8
	9月末	10,164	△0.4	—
	10月末	10,148	△0.6	—
	(償還日) 2017年11月2日	(償還価額) 10,146.65	△0.6	—

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注2) 債券組入比率は、マザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注3) 当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載していません。

Bコース（為替ヘッジなし）

■最近10期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			債 券 組 入 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 分 配 込 金	期 騰 落 中 率		
	円	円	%	%	百万円
67期 (2015年8月10日)	11,950	20	3.5	93.2	346
68期 (2015年11月9日)	11,811	20	△1.0	92.6	330
69期 (2016年2月8日)	11,343	20	△3.8	95.2	303
70期 (2016年5月9日)	10,462	20	△7.6	95.3	280
71期 (2016年8月8日)	9,975	20	△4.5	94.5	261
72期 (2016年11月8日)	10,186	20	2.3	96.1	265
73期 (2017年2月8日)	10,743	20	5.7	96.2	269
74期 (2017年5月8日)	10,786	20	0.6	96.6	267
75期 (2017年8月8日)	10,840	20	0.7	97.0	257
(償 還 日) 2017年11月2日	(償還価額) 10,952.99		1.0	—	232

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万円当たり（以下同じ）。

(注3) 債券組入比率は、マザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注4) 当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載していません。

■最終期の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		債 券 組 入 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	
		円	%	%
最終期	(期 首) 2017年8月8日	10,840	—	97.0
	8月末	10,832	△0.1	96.0
	9月末	10,973	1.2	—
	10月末	10,954	1.1	—
	(償還日) 2017年11月2日	(償還価額) 10,952.99	1.0	—

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

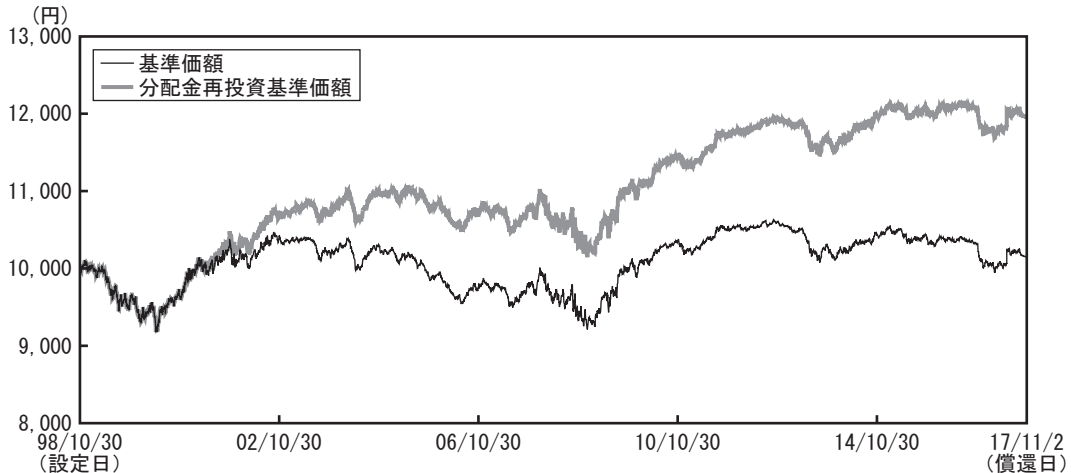
(注2) 債券組入比率は、マザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注3) 当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載していません。

設定以来の運用経過（1998年10月30日（設定日）～2017年11月2日（償還日））

■ 基準価額の推移

（Aコース（為替ヘッジあり））



設定日：10,000円

償還日：10,146円65銭（期中分配金合計1,683円）

騰落率：19.6%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

■ 基準価額の主な変動要因

（Aコース（為替ヘッジあり））

投資している損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドが、実質的な投資対象であるMBSの金利収入等により上昇したことがプラスに寄与しました。当ファンドは為替をヘッジしているため為替変動による影響は受けませんでした。

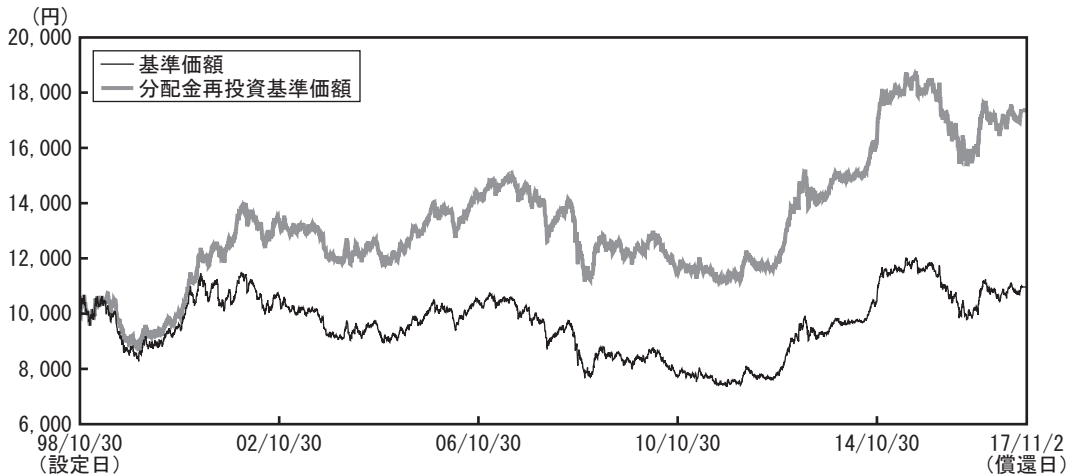
（損保ジャパンTCW・MBSマザーファンド）（1998年10月30日～2017年11月1日）

期中の騰落率は+123.6%となりました。

保有していたMBSの金利収入等が主にプラスに寄与しました。

■ 基準価額の推移

(Bコース (為替ヘッジなし))



設定日：10,000円

償還日：10,952円99銭 (期中分配金合計4,680円)

騰落率：73.4% (分配金再投資基準価額ベース)

- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

■ 基準価額の主な変動要因

(Bコース (為替ヘッジなし))

投資している損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドが、実質的な投資対象であるMBSの金利収入等により上昇したことがプラスに寄与しました。

(損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド) (1998年10月30日～2017年11月1日)

期中の騰落率は+123.6%となりました。

保有していたMBSの金利収入等が主にプラスに寄与しました。

■投資環境（1998年10月30日～2017年11月1日※）

○米国MBS市場

MBS利回りは、設定時対比で低下しました。

設定時から2003年6月までのMBS利回りは、米国を中心にIT関連企業の株価が大幅に下落したことや、2001年9月に米国で発生した同時多発テロ事件に伴う地政学リスクの高まりに加えて、FRB（米連邦準備理事会）による利下げの継続などを背景に、低下しました。

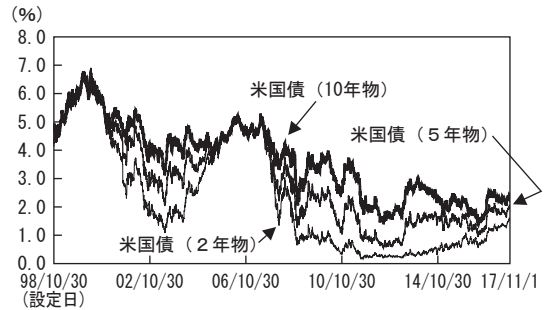
その後は雇用関連指標の改善などで米国の経済に回復の兆しが見られたことや、2004年から2006年にかけてFRBによる利上げが継続して行われたため、緩やかな上昇基調が続きました。

2007年以降のMBS利回りは、低所得者向けのサブプライム住宅ローンの貸し倒れ増加への懸念が高まったことや、FRBが大幅な利下げを継続して行ったことから低下基調となりました。また、2008年9月に大手投資銀行のリーマン・ブラザーズが経営破綻したことなどから世界的な金融危機が発生したため、大きく低下しました。その後も米国の失業率が悪化傾向にあるなど経済が低迷したほか、FRBによる量的金融緩和の実施により、MBS利回りの低下が続きました。

2012年後半から2013年にかけては米国経済の回復期待等から小幅に上昇しましたが、その後はFRBの金融緩和策縮小の動向や、インフレに繋がるとされるトランプ大統領の政策動向に左右され、当ファンドの償還を迎えるまで、概ね横ばい圏で推移しました。

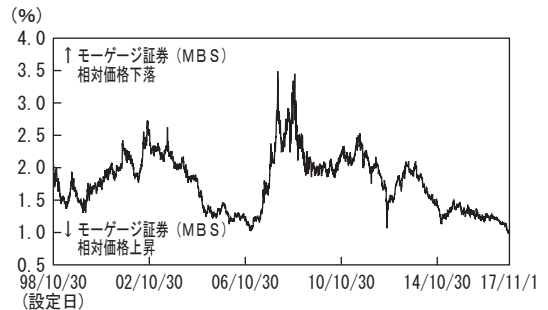
MBS利回りと米5年国債利回りのスプレッドについては、2008年のサブプライム住宅ローンへの懸念や世界的な金融危機発生時に大きく拡大する場面もありましたが、FRBによるMBSの購入等を背景に落ち着きを取り戻し、設定時対比でのスプレッドは縮小しました。

米国債利回りの推移



（出所：Bloomberg）

MBS（30年）と米国債（5年物）の利回り格差



（出所：Bloomberg）

（注）30年物MBSは期限前償還が発生するため、デュレーションが同期限の米国債と比べて短くなります。従って、5年物米国債と比較しております。

○為替市場

為替市場（ドル円）は設定時対比で円高ドル安が進行しました。

設定時から2001年にかけては、日銀によるゼロ金利政策の実施などを背景に、円安ドル高が進みました。しかしその後、米国を中心としたIT関連企業の株価が大幅に下落したことや、米国で同時多発テロが発生したことなどからドルが売られた一方で、安全資産とされる円が買われたため円高ドル安が進みました。

2004年には、FRB（米連邦準備理事会）が利上げを開始した一方で、日銀によるゼロ金利政策の継続を背景とした日米金利差や、米国の景気回復期待などから、円安ドル高が進みました。

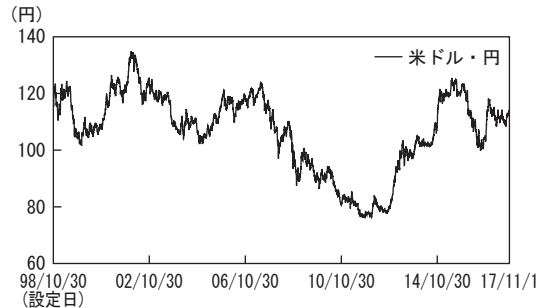
2007年には、米国で低所得者向けのサブプライム住宅ローンの貸し倒れに対する懸念が高まったことや、その後に発生した世界的な金融危機を背景に米国を中心とした世界経済の先行きが不安視され、円高ドル安が進みました。また、FRBが大幅な利下げを継続して行い日米金利差が縮小したことや、欧州の債務問題の懸念が高まる中で相対的に円が買われたことなどから、円高ドル安が継続して進みました。

2011年後半は、安倍政権が掲げる政策に金融緩和策が盛り込まれ、その後日銀が市場予想を上回る金融緩和策を実施したことをきっかけに、急速に円安ドル高が進みました。その後も米国の景気回復期待が高まったことや、2014年にFRBが量的金融緩和の縮小を決定したことなどから、円安ドル高傾向が続きました。

2016年前半は、中国発の世界同時株安などから投資家のリスク回避志向が強まり、円高ドル安が進行しました。その後は、資源価格の変動、英国のEU（欧州連合）離脱問題、FRBの利上げ動向、米国のトランプ大統領の政策実現の可能性などの材料を睨みながら、為替市場は上下する展開となりました。

※マザーファンドへの投資期間における投資環境を記載しています。

為替レートの推移



(出所：Bloomberg)

(注) 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

■当該投資信託のポートフォリオ**(Aコース(為替ヘッジあり))**

当ファンドの運用については、損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドの組入比率を高位に維持しました。また、為替ヘッジにつきましては、原則外貨建資産の概ね99%±1%の範囲内でコントロールしました。その後、当ファンドの償還決定を受けて、キャッシュ化を進めました。

(Bコース(為替ヘッジなし))

当ファンドの運用につきましては、損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドの組入比率を高位に維持しました。その後、当ファンドの償還決定を受けて、キャッシュ化を進めました。

(損保ジャパンTCW・MBSマザーファンド) (1998年10月30日～2017年11月1日)

当マザーファンドは米国ドルベースでベンチマークを上回るリターンを獲得を目指しました。当マザーファンドのデュレーションは、ベンチマークのデュレーションに対して、上下1.5年の範囲内に維持することを基本としており、金利低下が見込まれる局面でデュレーションを長期化する一方で、金利上昇が見込まれる局面ではデュレーションを短期化しました。その後、当ファンドの償還決定を受けてキャッシュ化を進めました。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

(Aコース(為替ヘッジあり))

(Bコース(為替ヘッジなし))

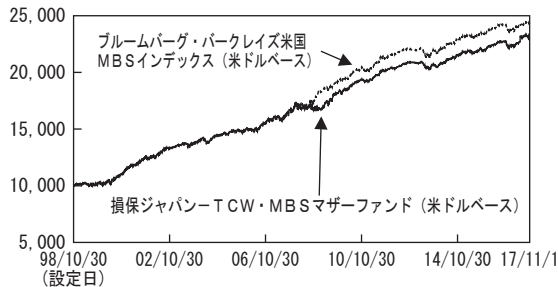
各ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異についてご説明します。

＜損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドとベンチマークとの差異＞

「損保ジャパンTCW・MBSマザーファンド」の米ドルベースの騰落率(1998年10月30日～2017年11月1日)は+128.8%となり、ベンチマークである「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」の米ドルベースの騰落率+143.4%を下回りました。

デュレーション要因等がマイナスに寄与しました。

損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドとブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスの推移(米ドルベース)



(注) 「損保ジャパンTCW・MBSマザーファンド」の基準価額(米ドルベース)とブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス*(米ドルベース)を比較し、期首を10,000として委託会社にて指数化したものを使用しております。

マザーファンドの基準価額(米ドルベース)は、各基準日の基準価額を当日の為替レート(対顧客電信売買相場の仲値)を用いて委託会社が独自に換算したものを使用しております。

なお、各基準日のベンチマークは、基準価額の算出方法に合わせて各基準日の前営業日の数値を使用しております。

※ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

■分配金**（Ａコース（為替ヘッジあり））**

収益分配金については、収益分配方針に基づき、基準価額水準等を勘案し、第１期～第９期は各０円（１万口当たり、以下同じ。）、第１０期～第２１期は各５０円、第２２期は２８円、第２３期～第２７期は各５０円、第２８期～第３０期は各２５円、第３１期～第３３期は各１０円、第３４期～第４５期は各０円、第４６期～第４８期は各２５円、第４９期は０円、第５０期～第７０期は各２５円、第７１期～第７５期は各２０円、合計１,６８３円の分配を行いました。

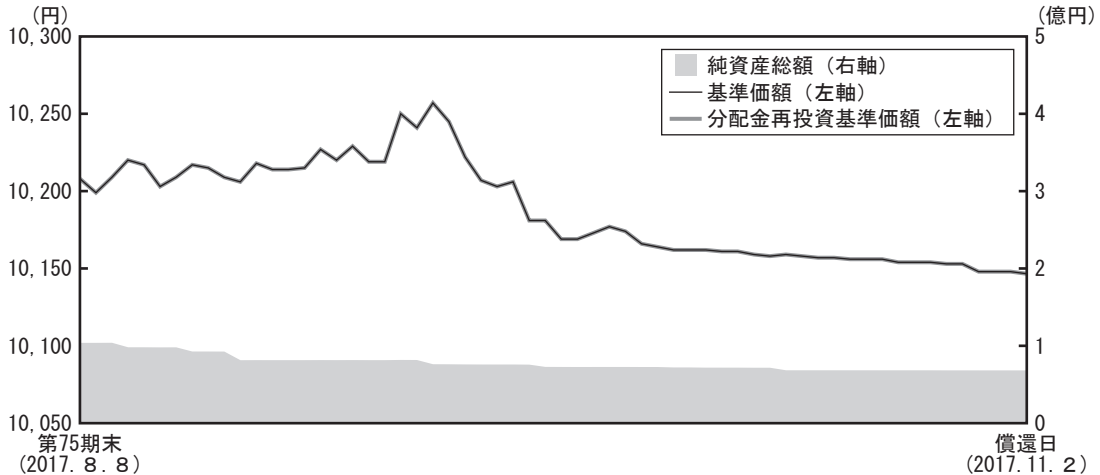
（Ｂコース（為替ヘッジなし））

収益分配金については、収益分配方針に基づき、基準価額水準等を勘案し、第１期は０円（１万口当たり、以下同じ。）、第２期は４５０円、第３期～第８期は各０円、第９期は３５０円、第１０期は４００円、第１１期は５００円、第１２期は３００円、第１３期～第１７期は各１５０円、第１８期は０円、第１９期は７５円、第２０期～第２３期は各０円、第２４期～第２８期は各５０円、第２９期は１００円、第３０期～第３１期は各２５円、第３２期～第３４期は各１５０円、第３５期は１００円、第３６期は５０円、第３７期～第５１期は各２５円、第５２期～第７５期は各２０円、合計４,６８０円の分配を行いました。

最終期の運用経過（2017年8月9日～2017年11月2日（償還日））

■ 基準価額の推移

（Aコース（為替ヘッジあり））



第76期首：10,208円

償還時：10,146円65銭（期中分配金合計一円）

騰落率：△0.6%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額の推移は、2017年8月8日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

■ 基準価額の主な変動要因

（Aコース（為替ヘッジあり））

投資している損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドが為替要因等により上昇したものの、当ファンドは為替をヘッジしているため円安ドル高の影響は受けず、実質的な投資対象であるMBSの価格が小幅に下落したこと等がマイナスに寄与しました。

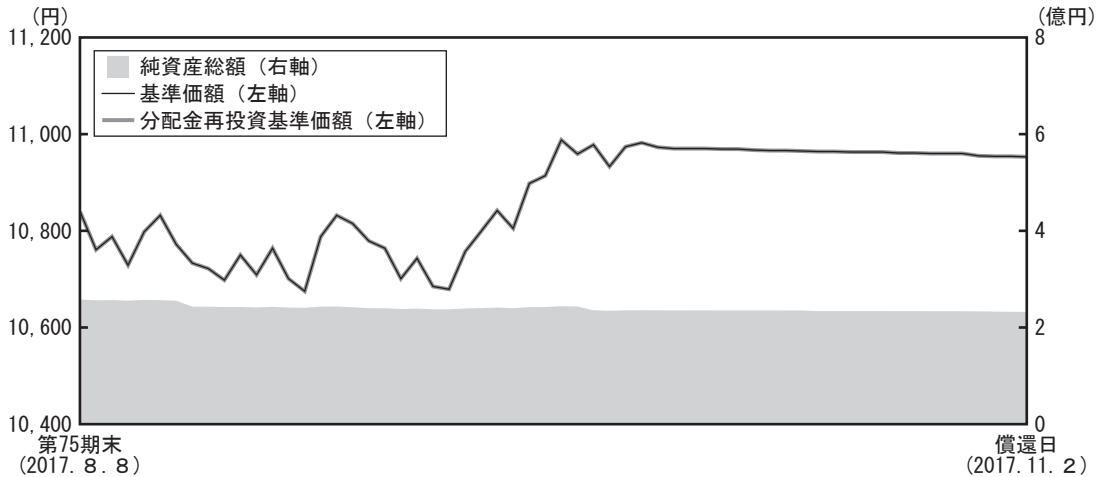
（損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド）（2017年8月9日～2017年11月1日）

期中の騰落率は+1.3%となりました。

円安ドル高が進んだことによる為替要因等が主にプラスに寄与しました。

■ 基準価額の推移

(Bコース (為替ヘッジなし))



第76期首：10,840円

償還時：10,952円99銭 (期中分配金合計一円)

騰落率：1.0% (分配金再投資基準価額ベース)

- ・分配金再投資基準価額の推移は、2017年8月8日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

■ 基準価額の主な変動要因

(Bコース (為替ヘッジなし))

投資している損保ジャパン-T CW・MBSマザーファンドが為替要因等により上昇したことがプラスに寄与しました。

(損保ジャパン-T CW・MBSマザーファンド) (2017年8月9日～2017年11月1日)

期中の騰落率は+1.3%となりました。

円安ドル高が進んだことによる為替要因等が主にプラスに寄与しました。

■投資環境（2017年8月9日～2017年11月1日※）

○米国MBS市場

MBS利回りは前期末と比べて同水準となりました。

期初から9月上旬にかけては、トランプ政権の先行き不透明感が高まったことや、北朝鮮のミサイル発射実施による地政学リスクの高まりを受けて、MBS利回りは低下しました。

9月中旬は、北朝鮮を巡る地政学リスクに対する懸念が後退し、MBS利回りは上昇に転じました。その後も、FOMC（米連邦公開市場委員会）メンバーによる政策金利見通しが示され年内の利上げ観測が高まったことに加えて、堅調な経済指標やトランプ政権による税制改革期待の高まりを背景に、上昇基調が続きました。

しかし10月の月末近くには、FRB（米連邦準備理事会）次期議長が利上げに慎重なパウエル氏が有力であるとの報道などから、MBS利回りは小幅に低下しました。

MBS利回りと米国5年国債利回りの格差は、好調な米国住宅市況等を背景に、前期末比で縮小しました。

○為替市場

為替市場（ドル円）は円安ドル高が進行しました。

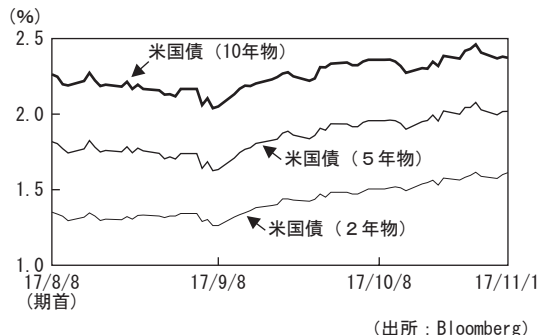
期初から8月下旬にかけては、北朝鮮を巡る地政学リスクが高まった一方で堅調な米国経済指標が発表されたことなどから、概ね横ばいで推移しました。

9月上旬は、北朝鮮を巡る地政学リスクが再び高まったことやハリケーンによる米国経済への被害への懸念から、円高ドル安が進みました。

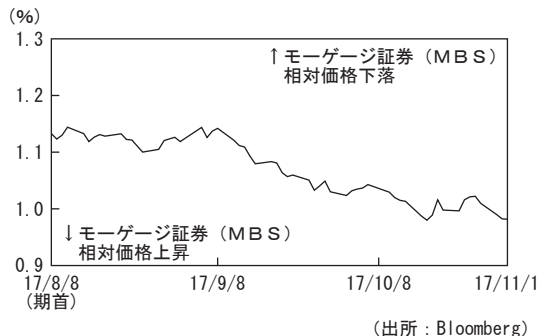
しかしその後は、米国の年内利上げ観測の高まりや堅調な経済指標、トランプ政権による税制改革期待を背景とした米国金利の上昇を受けて、円安ドル高基調で進みました。

※マザーファンドへの投資期間における投資環境を記載しています。

米国債利回りの推移

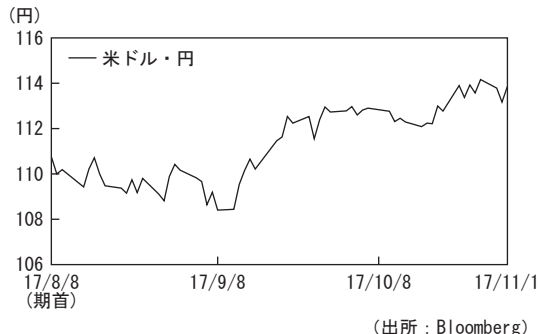


MBS（30年）と米国債（5年物）の利回り格差



(注) 30年物MBSは期限前償還が発生するため、デュレーションが同期限の米国債と比べて短くなります。従って、5年物米国債と比較しております。

為替レートの推移



(注) 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

■当該投資信託のポートフォリオ**(Aコース(為替ヘッジあり))**

当ファンドの運用については、損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドの組入比率を高位に維持しました。また、為替ヘッジにつきましては、原則外貨建資産の概ね99%±1%の範囲内でコントロールしました。その後、当ファンドの償還決定を受けて、キャッシュ化を進めました。

(Bコース(為替ヘッジなし))

当ファンドの運用につきましては、損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドの組入比率を高位に維持しました。その後、当ファンドの償還決定を受けて、キャッシュ化を進めました。

(損保ジャパンTCW・MBSマザーファンド) (2017年8月9日~2017年11月1日)

当マザーファンドは米国ドルベースで「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」を上回るリターンを獲得を目指しました。

当マザーファンドのデュレーションは、「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」のデュレーションに対して、上下1.5年の範囲内に維持することを基本としております。デュレーションの推移については、総じてベンチマークに対して短めのデュレーションを維持しました。その後、当ファンドの償還決定を受けて、キャッシュ化を進めました。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

(Aコース(為替ヘッジあり))

(Bコース(為替ヘッジなし))

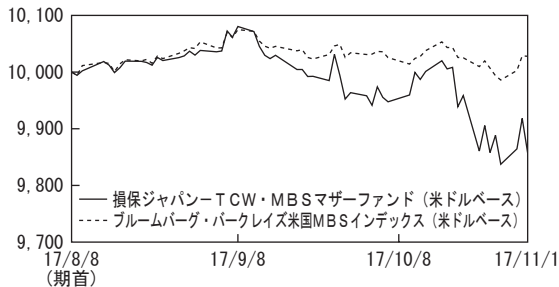
各ファンドは、マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異についてご説明します。

<損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドとベンチマークとの差異>

当期の「損保ジャパンTCW・MBSマザーファンド」の米ドルベースの騰落率(2017年8月9日~2017年11月1日)は-1.4%となり、ベンチマークである「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」の米ドルベースの騰落率+0.3%を下回りました。

当ファンドの償還決定を受けて円キャッシュ化を進めたことで、その後の円安ドル高の恩恵を享受できなかったことがマイナスに寄与しました。

損保ジャパンTCW・MBSマザーファンドとブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスの推移(米ドルベース)



(注) 「損保ジャパンTCW・MBSマザーファンド」の基準価額(米ドルベース)とブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス^{*}(米ドルベース)を比較し、期首を10,000として委託会社にて指数化したものを使用しております。

マザーファンドの基準価額(米ドルベース)は、各基準日の基準価額を当日の為替レート(対顧客電信売買相場の仲値)を用いて委託会社が独自に換算したものを使用しております。

なお、各基準日のベンチマークは、基準価額の算出方法に合わせて各基準日の前営業日の数値を使用しております。

※ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

■分配金

該当事項はありません。

<償還を迎えて>

当ファンドは、2017年11月2日をもちまして信託期間を終了し、繰上償還とさせていただくこととなりました。受益者のみなさまのご愛顧に心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

■ 1 万口当たりの費用明細
(A コース (為替ヘッジあり))

項目	最終期		項目の概要
	(2017年8月9日~2017年11月2日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	33円	0.321%	(a) 信託報酬 = 各期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{各期の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は10,187円です。
(投信会社)	(18)	(0.178)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(13)	(0.127)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(2)	(0.015)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	5	0.045	(b) その他費用 = $\frac{\text{各期中のその他費用}}{\text{各期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(4)	(0.044)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.001)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	37	0.366	

(B コース (為替ヘッジなし))

項目	最終期		項目の概要
	(2017年8月9日~2017年11月2日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	35円	0.320%	(a) 信託報酬 = 各期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{各期の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は10,867円です。
(投信会社)	(19)	(0.178)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(14)	(0.127)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(2)	(0.015)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	5	0.049	(b) その他費用 = $\frac{\text{各期中のその他費用}}{\text{各期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(5)	(0.047)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.001)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	40	0.369	

(注1) 期中の費用 (消費税のかかるものは消費税を含む) は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、各ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、各ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

Aコース（為替ヘッジあり）

■親投資信託受益証券の設定、解約状況

（2017年8月9日から2017年11月2日まで）

	最 終 期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
損保ジャパンTCW・MBS マザーファンド	千口 365	千円 800	千口 46,674	千円 103,749

（注1）単位未満は切捨て。

（注2）金額は受渡代金。

■利害関係人との取引状況（2017年8月9日から2017年11月2日まで）

当ファンド及びマザーファンドにおける最終期中の利害関係人との取引はございません。

■組入資産の明細

○親投資信託残高

（2017年11月2日現在）

	期首（第75期末）	償 還 時	
	口 数	口 数	評 価 額
損保ジャパンTCW・MBS マザーファンド	千口 46,308	千口 —	千円 —

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

（2017年11月2日現在）

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 68,538	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	68,538	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

■資産、負債、元本および償還価額の状況

(2017年11月2日現在)

項 目	償 還 時
a 資産	68,538,524円
コール・ローン等	68,538,524
b 負債	253,907
未払信託報酬	253,156
未払利息	748
その他未払費用	3
c 純資産総額(a - b)	68,284,617
元本	67,297,706
償還差損益金	986,911
d 受益権総口数	67,297,706口
1万口当たり償還価額(c / d)	10,146円65銭

(注1) 当作成期間(第76期)における期首元本額101,747,998円、期中追加設定元本額182,627円、期中一部解約元本額34,632,919円

(注2) 償還時における1口当たりの純資産総額 1.014665円

■損益の状況

(2017年8月9日から2017年11月2日まで)

項 目	最 終 期
a 配当等収益	△ 2,230円
受取利息	55
支払利息	△ 2,285
b 有価証券売買損益	△ 181,692
売買益	1,316,102
売買損	△1,497,794
c 信託報酬等	△ 253,168
d 当期損益金(a + b + c)	△ 437,090
e 前期繰越損益金	430,726
f 追加信託差損益金	993,275
(配当等相当額)	(1,427,696)
(売買損益相当額)	(△ 434,421)
g 合計(d + e + f)	986,911
償還差損益金(g)	986,911

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 当ファンドが支払った損保ジャパン T C W ・ M B S マザーファンドの運用の指図に係わる権限を委託するために要した費用は59,477円です。(2017年8月9日から2017年11月2日まで)

■投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	1998年10月30日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2017年11月2日			資産総額	68,538,524円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託		負債総額	253,907円
受益権口数	7,300,851,773口	67,297,706口	△7,233,554,067口		純資産総額	68,284,617円
					受益権口数	67,297,706口
元本額	7,300,851,773円	67,297,706円	△7,233,554,067円		1万口当たり償還金	10,146円65銭
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たりの分配金		
				金額	分配率	
	円	円	円	円	%	
第35期	2,701,071,667	2,594,745,127	9,606	0	—	
第36期	2,667,153,273	2,603,793,814	9,762	0	—	
第37期	2,620,342,120	2,595,332,273	9,905	0	—	
第38期	2,310,260,480	2,222,459,618	9,620	0	—	
第39期	2,232,457,614	2,139,050,374	9,582	0	—	
第40期	2,195,907,389	2,059,722,547	9,380	0	—	
第41期	2,187,255,458	2,030,672,291	9,284	0	—	
第42期	1,217,257,192	1,170,653,728	9,617	0	—	
第43期	1,210,297,572	1,163,851,635	9,616	0	—	
第44期	995,334,610	994,880,272	9,995	0	—	
第45期	787,518,509	796,899,849	10,119	0	—	
第46期	778,379,713	792,821,091	10,186	25	0.25	
第47期	774,830,897	797,399,103	10,291	25	0.25	
第48期	665,560,035	688,386,657	10,343	25	0.25	
第49期	658,200,947	671,173,768	10,197	0	—	
第50期	622,693,017	643,809,157	10,339	25	0.25	
第51期	617,642,874	645,679,405	10,454	25	0.25	
第52期	403,083,324	423,424,327	10,505	25	0.25	
第53期	400,834,931	421,072,540	10,505	25	0.25	
第54期	367,111,380	386,403,828	10,526	25	0.25	
第55期	372,097,071	393,922,304	10,587	25	0.25	
第56期	374,315,004	396,149,567	10,583	25	0.25	
第57期	361,917,089	380,199,039	10,505	25	0.25	
第58期	345,480,423	361,598,857	10,467	25	0.25	
第59期	353,005,240	360,034,777	10,199	25	0.25	
第60期	339,413,984	348,052,621	10,255	25	0.25	
第61期	335,666,268	343,966,779	10,247	25	0.25	
第62期	328,267,040	338,316,870	10,306	25	0.25	
第63期	323,987,044	335,130,293	10,344	25	0.25	
第64期	279,658,453	291,175,828	10,412	25	0.25	
第65期	276,411,680	289,963,269	10,490	25	0.25	
第66期	272,539,111	284,291,534	10,431	25	0.25	
第67期	272,744,174	283,022,606	10,377	25	0.25	
第68期	273,579,415	282,264,038	10,317	25	0.25	
第69期	260,409,176	270,590,646	10,391	25	0.25	
第70期	260,440,066	269,860,662	10,362	25	0.25	
第71期	230,610,191	238,755,660	10,353	20	0.20	
第72期	126,839,298	130,551,429	10,293	20	0.20	
第73期	126,517,234	127,252,298	10,058	20	0.20	
第74期	126,240,041	126,582,698	10,027	20	0.20	
第75期	101,747,998	103,867,786	10,208	20	0.20	

Bコース（為替ヘッジなし）

■親投資信託受益証券の設定、解約状況

（2017年8月9日から2017年11月2日まで）

	最 終 期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
損保ジャパンTCW・MBS マザーファンド	千口 —	千円 —	千口 115,700	千円 258,453

（注1）単位未満は切捨て。

（注2）金額は受渡代金。

■利害関係人との取引状況（2017年8月9日から2017年11月2日まで）

当ファンド及びマザーファンドにおける最終期中の利害関係人との取引はございません。

■組入資産の明細

○親投資信託残高

（2017年11月2日現在）

	期首（第75期末）	償 還 時	
	口 数	口 数	評 価 額
損保ジャパンTCW・MBS マザーファンド	千口 115,700	千口 —	千円 —

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

（2017年11月2日現在）

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 233,745	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	233,745	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

■資産、負債、元本および償還価額の状況

(2017年11月2日現在)

項 目	償 還 時
a 資産	233,745,419円
コール・ローン等	233,745,419
b 負債	1,361,207
未払解約金	580,098
未払信託報酬	778,540
未払利息	2,560
その他未払費用	9
c 純資産総額 (a - b)	232,384,212
元本	212,165,132
償還差損益金	20,219,080
d 受益権総口数	212,165,132口
1万口当たり償還価額 (c / d)	10,952円99銭

(注1) 当作成期間 (第76期) における期首元本額237,862,381円、期中追加設定元本額258,743円、期中一部解約元本額25,955,992円

(注2) 償還時における1口当たりの純資産総額 1.095299円

■損益の状況

(2017年8月9日から2017年11月2日まで)

項 目	最 終 期
a 配当等収益	△ 6,914円
受取利息	42
支払利息	△ 6,956
b 有価証券売買損益	3,147,032
売買益	3,344,762
売買損	△ 197,730
c 信託報酬等	△ 778,578
d 当期損益金 (a + b + c)	2,361,540
e 前期繰越損益金	25,210,231
f 追加信託差損益金	△ 7,352,691
(配当等相当額)	(11,111,725)
(売買損益相当額)	(△18,464,416)
g 合計 (d + e + f)	20,219,080
償還差損益金 (g)	20,219,080

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 当ファンドが支払った損保ジャパン T C W ・ M B S マザーファンドの運用の指図に係わる権限を委託するために要した費用は182,749円です。(2017年8月9日から2017年11月2日まで)

■投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	1998年10月30日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2017年11月2日			資産総額	233,745,419円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託		負債総額	1,361,207円
受益権口数	3,277,290,687口	212,165,132口	△3,065,125,555口		純資産総額	232,384,212円
					受益権口数	212,165,132口
元本額	3,277,290,687円	212,165,132円	△3,065,125,555円		1万口当たり償還金	10,952円99銭
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たりの分配金		
				金額	分配率	
	円	円	円	円	%	
第35期	4,792,346,247	4,901,170,472	10,227	100	1.00	
第36期	5,012,502,918	4,988,281,330	9,952	50	0.50	
第37期	5,267,800,450	5,110,208,165	9,701	25	0.25	
第38期	2,225,485,186	2,057,145,462	9,244	25	0.25	
第39期	1,882,667,128	1,815,991,950	9,646	25	0.25	
第40期	1,636,347,584	1,406,474,134	8,595	25	0.25	
第41期	1,446,881,268	1,142,996,637	7,900	25	0.25	
第42期	1,284,109,771	1,126,801,389	8,775	25	0.25	
第43期	1,156,303,710	992,665,900	8,585	25	0.25	
第44期	1,103,378,493	909,677,390	8,244	25	0.25	
第45期	1,021,083,135	847,510,530	8,300	25	0.25	
第46期	972,941,215	839,674,890	8,630	25	0.25	
第47期	928,505,549	751,630,051	8,095	25	0.25	
第48期	879,114,184	681,275,911	7,750	25	0.25	
第49期	852,793,895	658,236,903	7,719	25	0.25	
第50期	807,408,662	619,704,418	7,675	25	0.25	
第51期	729,543,416	548,861,962	7,523	25	0.25	
第52期	712,612,808	538,323,525	7,554	20	0.20	
第53期	677,774,855	505,241,026	7,454	20	0.20	
第54期	653,995,722	508,049,972	7,768	20	0.20	
第55期	597,369,394	459,203,131	7,687	20	0.20	
第56期	580,411,367	453,997,928	7,822	20	0.20	
第57期	562,284,954	510,378,995	9,077	20	0.20	
第58期	542,316,541	517,106,028	9,535	20	0.20	
第59期	496,580,652	451,849,774	9,099	20	0.20	
第60期	483,113,787	448,751,773	9,289	20	0.20	
第61期	432,186,060	418,659,214	9,687	20	0.20	
第62期	384,513,131	372,882,843	9,698	20	0.20	
第63期	366,059,553	357,508,095	9,766	20	0.20	
第64期	340,979,221	374,510,810	10,983	20	0.20	
第65期	336,134,834	386,829,385	11,508	20	0.20	
第66期	308,643,035	356,790,926	11,560	20	0.20	
第67期	289,830,990	346,344,718	11,950	20	0.20	
第68期	279,417,471	330,013,871	11,811	20	0.20	
第69期	267,735,450	303,682,248	11,343	20	0.20	
第70期	268,363,953	280,749,970	10,462	20	0.20	
第71期	262,285,692	261,632,495	9,975	20	0.20	
第72期	260,468,515	265,302,295	10,186	20	0.20	
第73期	250,622,573	269,244,410	10,743	20	0.20	
第74期	248,049,169	267,533,509	10,786	20	0.20	
第75期	237,862,381	257,853,168	10,840	20	0.20	

■償還金のお知らせ

	Aコース（為替ヘッジあり）	Bコース（為替ヘッジなし）
1万口当たりの償還金（税引前）	10,146円65銭	10,952円99銭

損保ジャパン-T CW・MBS マザーファンド

繰上償還 運用報告書

最終期（償還日 2017年11月1日）

<計算期間 2016年11月9日～2017年11月1日>

損保ジャパン-T CW・MBS マザーファンドの設定以来の運用状況と償還の内容をご報告申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	1998年10月30日から2017年11月1日まで（当初、無期限）
運用方針	信託財産の中長期的成長を目指して、積極的な運用を行います。 主として米国ドル建のMBSに分散投資し、米国ドルベースでブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスを上回る収益率の獲得およびリスクの分散を図ることを目指します。 運用にあたっては、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANY（米国）に米国ドル建MBSの運用指図に関する権限を委託します。
主要投資対象	米国ドル建のMBS
主な組入制限	MBSの投資において、パススルー証券の元本と金利部分を分離して発行されたPOおよびIOの組入れは、取得時において各々純資産総額の5%以内とします。 CMOの一種で、クーポンが一定の条件式に従って指標となる市場金利等の動きとは逆の方向に変動するインバース・フローターの組入れは、取得時において純資産総額の15%以内とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

■最近10期の運用実績

<参考>基準価額とベンチマーク比較(米ドルベース)

決算期	基準価額		債券 組入比率	純資産 総額	基準価額(米ドルベース) (設定日=10,000)		ベンチマーク (設定日=10,000)	
	円	騰落率			騰落率	騰落率		
10期(2008年11月10日)	14,281	% △11.6	% 96.7	百万円 5,287	16,772	% 0.6	17,498	% 6.7
11期(2009年11月9日)	14,049	△1.6	97.1	3,304	18,200	8.5	19,240	10.0
12期(2010年11月8日)	13,536	△3.7	97.4	2,361	19,409	6.6	20,448	6.3
13期(2011年11月8日)	13,534	△0.0	93.2	1,741	20,199	4.1	21,321	4.3
14期(2012年11月8日)	14,353	6.1	97.4	1,496	20,909	3.5	22,034	3.3
15期(2013年11月8日)	17,455	21.6	98.5	1,446	20,701	△1.0	21,923	△0.5
16期(2014年11月10日)	21,113	21.0	96.7	1,306	21,508	3.9	22,896	4.4
17期(2015年11月9日)	23,183	9.8	93.2	1,240	21,903	1.8	23,329	1.9
18期(2016年11月8日)	20,394	△12.0	97.1	890	22,732	3.8	24,222	3.8
(償還日) 2017年11月1日	(償還価額) 22,360.9	9.6	—	425	22,879	0.7	24,341	0.5

(注1) 基準価額は1万口当たり(以下同じ)。

(注2) 当ファンドのベンチマークはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス[®](米ドルベース)を使用しております。

(注3) 当ファンドのベンチマークはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス(米ドルベース)を使用しているため基準価額(円ベース)との比較は行っておりません。

参考として、ファンド設定日を10,000として委託会社にて指数化した当ファンドの米ドルベースの基準価額と米ドルベースのブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスを掲載しております。

※ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ビーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ビーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。(以下同じ)

■当期中の基準価額と市況等の推移

<参考>基準価額とベンチマーク比較(米ドルベース)

年月日	基準価額		債券 組入比率	基準価額(米ドルベース) (設定日=10,000)		ベンチマーク (設定日=10,000)	
	円	騰落率		騰落率	騰落率		
(期首) 2016年11月8日	20,394	% —	% 97.1	22,732	% —	24,222	% —
11月末	21,586	5.8	96.8	22,369	△1.6	23,836	△1.6
12月末	22,253	9.1	97.0	22,255	△2.1	23,729	△2.0
2017年1月末	21,809	6.9	97.3	22,324	△1.8	23,761	△1.9
2月末	21,686	6.3	97.3	22,445	△1.3	23,899	△1.3
3月末	21,589	5.9	96.9	22,418	△1.4	23,871	△1.4
4月末	21,562	5.7	95.3	22,571	△0.7	24,041	△0.7
5月末	21,596	5.9	97.2	22,674	△0.3	24,197	△0.1
6月末	22,214	8.9	94.9	23,107	1.6	24,151	△0.3
7月末	21,929	7.5	97.1	23,151	1.8	24,222	0.0
8月末	22,065	8.2	96.9	23,280	2.4	24,375	0.6
9月末	22,378	9.7	—	23,126	1.7	24,357	0.6
10月末	22,361	9.6	—	23,021	1.3	24,343	0.5
(償還日) 2017年11月1日	22,360.9	9.6	—	22,879	0.7	24,341	0.5

(注1) 騰落率は期首比。

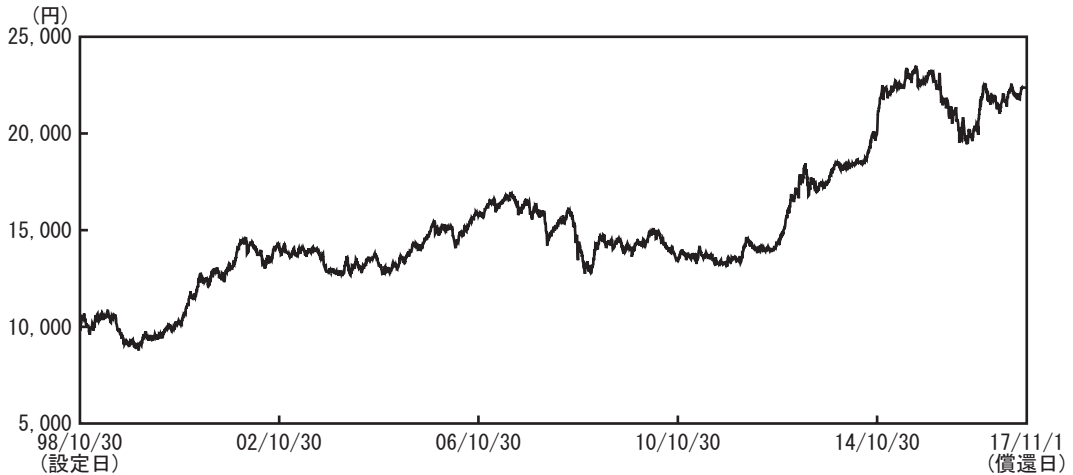
(注2) 当ファンドのベンチマークはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス(米ドルベース)を使用しております。

(注3) 当ファンドのベンチマークはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス(米ドルベース)を使用しているため基準価額(円ベース)との比較は行っておりません。

参考として、ファンド設定日を10,000として委託会社にて指数化した当ファンドの米ドルベースの基準価額と米ドルベースのブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスを掲載しております。

設定以来の運用経過（1998年10月30日（設定日）～2017年11月1日（償還日））

■ 基準価額の推移



設定日：10,000円
 償還日：22,360円90銭
 騰落率：123.6%

■ 基準価額の主な変動要因

期中の騰落率は+123.6%となりました。

保有していたMBSの金利収入等が主にプラスに寄与しました。

■投資環境

○米国MBS市場

MBS利回りは、設定時対比で低下しました。

設定時から2003年6月までのMBS利回りは、米国を中心にIT関連企業の株価が大幅に下落したことや、2001年9月に米国で発生した同時多発テロ事件に伴う地政学リスクの高まりに加えて、FRB（米連邦準備理事会）による利下げの継続などを背景に、低下しました。

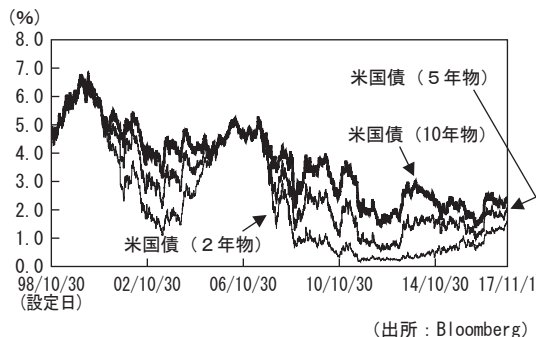
その後は雇用関連指標の改善などで米国の経済に回復の兆しが見られたことや、2004年から2006年にかけてFRBによる利上げが継続して行われたため、緩やかな上昇基調が続きました。

2007年以降のMBS利回りは、低所得者向けのサブプライム住宅ローンの貸し倒れ増加への懸念が高まったことや、FRBが大幅な利下げを継続して行ったことから低下基調となりました。また、2008年9月に大手投資銀行のリーマン・ブラザーズが経営破綻したことなどから世界的な金融危機が発生したため、大きく低下しました。その後も米国の失業率が悪化傾向にあるなど経済が低迷したほか、FRBによる量的金融緩和の実施により、MBS利回りの低下が続きました。

2012年後半から2013年にかけては米国経済の回復期待等から小幅に上昇しましたが、その後はFRBの金融緩和と政策縮小の動向や、インフレに繋がるとされるトランプ大統領の政策動向に左右され、当ファンドの償還を迎えるまで、概ね横ばい圏で推移しました。

MBS利回りと米5年国債利回りのスプレッドについては、2008年のサブプライム住宅ローンへの懸念や世界的な金融危機発生時に大きく拡大する場面もありましたが、FRBによるMBSの購入等を背景に落ち着きを取り戻し、設定時対比でのスプレッドは縮小しました。

米国債利回りの推移



MBS（30年）と米国債（5年物）の利回り格差



(注) 30年物MBSは期限前償還が発生するため、デュレーションが同期限の米国債と比べて短くなります。従って、5年物米国債と比較しております。

○為替市場

為替市場（ドル円）は設定時対比で円高ドル安が進行しました。

設定時から2001年にかけては、日銀によるゼロ金利政策の実施などを背景に、円安ドル高が進みました。しかしその後、米国を中心としたIT関連企業の株価が大幅に下落したことや、米国で同時多発テロが発生したことなどからドルが売られた一方で、安全資産とされる円が買われたため円高ドル安が進みました。

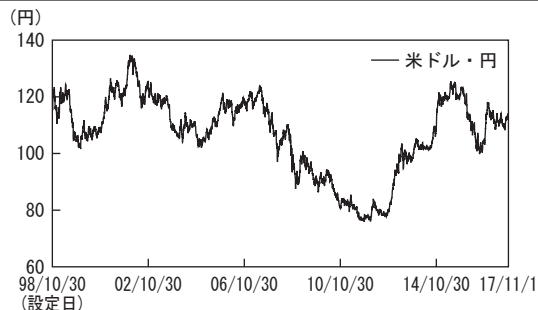
2004年には、FRB（米連邦準備理事会）が利上げを開始した一方で、日銀によるゼロ金利政策の継続を背景とした日米金利差や、米国の景気回復期待などから、円安ドル高が進みました。

2007年には、米国で低所得者向けのサブプライム住宅ローンの貸し倒れに対する懸念が高まったことや、その後に発生した世界的な金融危機を背景に米国を中心とした世界経済の先行きが不安視され、円高ドル安が進みました。また、FRBが大幅な利下げを継続して行い日米金利差が縮小したことや、欧州の債務問題の懸念が高まる中で相対的に円が買われたことなどから、円高ドル安が継続して進みました。

2011年後半は、安倍政権が掲げる政策に金融緩和策が盛り込まれ、その後日銀が市場予想を上回る金融緩和策を実施したことをきっかけに、急速に円安ドル高が進みました。その後も米国の景気回復期待が高まったことや、2014年にFRBが量的金融緩和の縮小を決定したことなどから、円安ドル高傾向が続きました。

2016年前半は、中国発の世界同時株安などから投資家のリスク回避志向が強まり、円高ドル安が進行しました。その後は、資源価格の変動、英国のEU（欧州連合）離脱問題、FRBの利上げ動向、米国のトランプ大統領の政策実現の可能性などの材料を睨みながら、為替市場は上下する展開となりました。

為替レートの推移



（出所：Bloomberg）

（注）為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

■当該投資信託のポートフォリオ

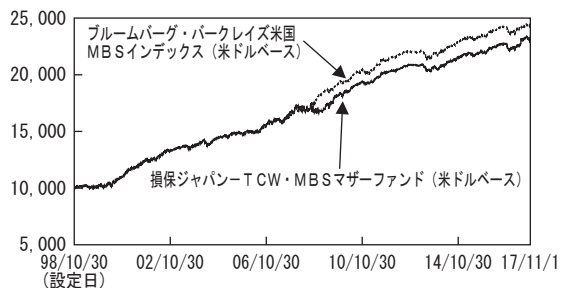
当マザーファンドは米国ドルベースでベンチマークを上回るリターンを獲得を目指しました。当マザーファンドのデュレーションは、ベンチマークのデュレーションに対して、上下1.5年の範囲内に維持することを基本としており、金利低下が見込まれる局面でデュレーションを長期化する一方で、金利上昇が見込まれる局面ではデュレーションを短期化しました。その後、当ファンドの償還決定を受けてキャッシュ化を進めました。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

「損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド」の米ドルベースの騰落率（1998年10月30日～2017年11月1日）は+128.8%となり、ベンチマークである「ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス」の米ドルベースの騰落率+143.4%を下回りました。

デュレーション要因等がマイナスに寄与しました。

損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンドとブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスの推移（米ドルベース）



(注) 「損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド」の基準価額（米ドルベース）とブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス*（米ドルベース）を比較し、期首を10,000として委託会社にて指数化したものを使用しております。

マザーファンドの基準価額（米ドルベース）は、各基準日の基準価額を当日の為替レート（対顧客電信売買相場の仲値）を用いて委託会社が独自に換算したものを使用しております。

なお、各基準日のベンチマークは、基準価額の算出方法に合わせて各基準日の前営業日の数値を使用しております。

※ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ビーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ビーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）またはブルームバーグのライセンスは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

<償還を迎えて>

当ファンドは、2017年11月1日をもちまして信託期間を終了し、繰上償還とさせていただきますとなりました。受益者のみなさまのご愛顧に心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

■ 1万口当たりの費用明細

(2016年11月9日から2017年11月1日まで)

項 目	
そ の 他 費 用	25円
(保 管 費 用)	(25)
(そ の 他)	(0)
合 計	25

(注) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については16ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

■ 売買及び取引の状況

○ 公社債

(2016年11月9日から2017年11月1日まで)

		買 付 額	売 付 額
外 国	アメリ カ	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
	国 債 証 券	4,984	6,511 (-)
	特 殊 債 券	25,413	31,263 (722)

(注1) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。
 (注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。
 (注4) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

○ 公社債

(2016年11月9日から2017年11月1日まで)

最 期		終 期	
買	付	売	付
銘	柄	銘	柄
金 額		金 額	
千円		千円	
US TREASURY N/B 1.625% 2022/08/31	234,503	US TREASURY N/B 1.625% 2022/08/31	233,561
FNCL 4.5 8/17 2047/08/25	88,221	US TREASURY N/B 0.75% 2018/08/31	141,052
FNCL 4.5 9/17 2047/09/25	87,068	FNCL 4.5 9/17 2047/09/25	89,122
FNCL 4.5 7/17 2047/07/25	85,104	FNCL 4.5 8/17 2047/08/25	87,150
FNCL 4.5 4/17 2047/04/25	84,502	FNCL 4.5 6/17 2047/06/25	85,225
FNCL 4.5 5/17 2047/05/25	84,169	FNCL 4.5 7/17 2047/07/25	84,770
FNCL 4.5 6/17 2047/06/25	83,947	FNCL 4.5 4/17 2047/04/25	84,323
FNCL 4.5 10/17 2047/10/25	82,939	FNCL 4.5 5/17 2047/05/25	84,099
US TREASURY N/B 1.5% 2019/01/31	77,125	FNCL 4.5 10/17 2047/10/25	82,890
FNCL 4.5 3/17 2045/03/25	75,505	FNCL 2.5 12/16 2031/12/25	82,847

(注1) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。
 (注2) 単位未満は切捨て。
 (注3) 邦貨換算金額は月中の取引を各月末のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

■ 利害関係人との取引状況 (2016年11月9日から2017年11月1日まで)

当ファンドにおける当期中の利害関係人との取引はございません。

■組入資産の明細

最終期末（2017年11月1日現在）における当該事項はございません。

■投資信託財産の構成

（2017年11月1日現在）

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 425,586	100.0 %
投 資 信 託 財 産 総 額	425,586	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2017年11月1日現在）

項 目	償 還 時
a 資産	425,586,545円
コール・ローン等	425,586,545
b 負債	2,682
未払利息	1,165
その他未払費用	1,517
c 純資産総額(a - b)	425,583,863
元本	190,325,000
償還差損益金	235,258,863
d 受益権総口数	190,325,000口
1万口当たり償還価額(c / d)	22,360円90銭

（注1）信託財産に係る期首元本額436,638,481円、期中追加設定元本額7,262,754円、期中一部解約元本額253,576,235円

（注2）期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託ごとの元本の内訳

損保ジャパン・TCW・MBSオープンAコース（為替ヘッジあり）	16,868,326円
損保ジャパン・TCW・MBSオープンBコース（為替ヘッジなし）	58,849,936円
損保ジャパン・TCW・MBSファンド（毎月分配型）	63,880,808円
スター・マンズリープラス	50,703,583円
損保ジャパン・TCW・MBSオープン（DC年金）Bコース（為替ヘッジなし）	22,347円

（注3）償還時における1口当たりの純資産総額 2,236,090円

■損益の状況

（2016年11月9日から2017年11月1日まで）

項 目	最 終 期
a 配当等収益	37,344,100円
受取利息	19,762,713
その他収益金	17,642,216
支払利息	△ 60,829
b 有価証券売買損益	45,505,132
売買益	74,771,304
売買損	△ 29,266,172
c 信託報酬等	△ 940,752
d 当期損益金(a + b + c)	81,908,480
e 前期繰越損益金	453,827,104
f 解約差損益金	△309,153,967
g 追加信託差損益金	8,677,246
h 合計(d + e + f + g)	235,258,863
償還差損益金(h)	235,258,863

（注1）有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

（注3）解約差損益金とは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

（注4）追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

■お知らせ

○運用上のベンチマークの名称変更にともない、投資信託約款に所要の変更を致しました（2016年12月20日）。